

7 上飯田村と領主たち

上飯田村は、鎌倉道（上の道）沿いに集落をなしている南北に細長い村である。

豊臣秀吉が小田原北条を滅ぼした天正十八年（一五九〇）、徳川家康が関東に入国すると、上飯田村は徳川氏の支配地となったが、戸塚区史によると、慶長六年（一六〇一）には、旗本佐野正直が支配している。

佐野正直は、慶安二年（一六四九）に、上飯田村の検地を行っている。この時の検地帳によると、当時上飯田村は、



飯島家文書



上飯田村絵図（藤沢市文書館蔵）

高座郡に属している。

上飯田村の名主役を代々勤めてきた中屋敷の飯島家の所蔵文書「上飯田村名寄帳」によると宝永四年（一七〇七）には、今まで上飯田村を支配していた佐野に代わり、三人の旗本が支配している。

三人の旗本と石高は次の通りである。

- ・上分 石川 織部 一五五石三斗三升三合
- ・中分 伊予田権左衛門 一三三石三斗三升三合
(後に、奥村に変わる)
- ・下分 木村 左門 一一一石三斗三合

石川織部盛行は、宝永三年（一七〇六）、武蔵国多摩郡、相模国鎌倉郡と高座郡の三郡（五〇〇石）を支配している。享保十五年（一七三〇）に死去した。墓所は東京深川の浄心寺である。

伊予田権左衛門正英は、宝永三年（一七〇六）四月二日、相模国鎌倉郡と高座郡（五〇〇石）を支配している。享保元年（一七一六）十月二十一日に死去した。墓所は東京青山の青原寺である。伊予田家は、家督を子矩武が継いだ。その子正成が一歳で死亡し、伊予田家は絶えたため、その後を奥村家が支配するようになった。

奥村市正矩政は、享保十八年（一七三三）十一月十五日、

相模国大住郡と鎌倉郡の二郡（六〇〇石）を支配している。安永五年（一七七六）四月二十八日に死去した。墓所は、東京品川の東海寺である。

木村左門信継は、宝永四年（一七〇七）二月、武蔵国都筑郡、相模国鎌倉郡の二郡（五〇〇石）を支配している。正徳三年（一七一三）五月二十一日に死去した。墓所は東京下谷法養寺である。

文久二年（一八六二）の「村高家数人別書上帳」によると、当時、上飯田村は、家数一一四軒、人数七四八人（男三五〇人、女三九八人）で、戸塚宿（助郷勤高二二五石）の定助郷と藤沢宿

（助郷勤高十五石）の大助郷を勤めていた。

明治元年（一八八六）王政復古により、今まで石川、奥村、木村の三旗本が支配してきた上飯田村は神奈川府（県）の管轄となった。



旧飯島家